

ミニプラネタリウム (冬)

小郡市周辺から見える冬の星座を映すことができるミニプラネタリウムです。
自分で作ったあとは、スマートフォンのライトなどを使って、お部屋でも星座を眺めることができます！

作り方

①

型紙を
切る

- オレンジの線に沿って本体と台座を切ろう。
- 台座の真ん中を切り抜くこともお忘れなく。

②

穴を
あける

- ダンボールなどを下にひいて、4つの星座の星をていねいに空けていこう。
- 赤色の星は穴を大きくするといいよ。

③

折る

- やま折り（折り線が外側に出るように折る）、たに折り（折り線が内側になるように折る）を確認しながら、折り目をつけていこう。

④

のり付け

- のりしろの部分に両面テープ、もしくはのりをつけて、合わせよう。
- 合わせるのりしろは同じマークが付いているよ（☆と☆など）

自分の名前を書いた台座に取り付け
本体の向き(方角)と台座の向き(方角)を合わせて、
完成!!



下からスマートフォンのライトなどを当てて、
星座を映し出してみよう!!

冬の星空解説① 冬の大きな三角

明るい星が多いことで有名な冬の夜空ですが、その中でも最も明るい星がおおいぬ座の「シリウス」です。冬の時期、南の方角のやや低い空で輝くシリウスから、少し上を見上げると、赤く輝くオリオン座の「ベテルギウス」が見つかります。最後にベテルギウスからやや東の空に輝くこいぬ座の「プロキオン」を見つければ、冬の大きな三角を結ぶことができます。冬の大きな三角はほぼ正三角形の形をしており、明るさと合わせて冬の星座を見つける目印となります。ぜひ見つけてみてください。

冬の星空解説② 星や星座の名前

冬を代表する星座の1つがオリオン座です。オリオン座はギリシャ神話で活躍した狩人(かりうど)を表している星座で、かつて日本では鼓星(つづみぼし)と呼ばれていました。またおうし座で輝くプレアデス星団は平安時代のころから、「すばる」と呼ばれており、日本人ならではの感性で見上げた星座の呼び名というものが現代に残っています。星空は過去と現在を繋いでくれる存在でもあるのです。昔の人に想いを馳せながら、星を眺めてみましょう。



写真上にある星の集まりが「すばる」。